

(メッセ海外通信 2014年1→3月号掲載記事)

～多様性の国・中国～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
木下 清治

みなさん「独身の日」というのをご存知ですか？

中国では、11月11日を「光棍節(グワン ガン ジェ)」＝「独身の日」と呼びます。なぜ11月11日が「独身の日」と呼ぶかということ、「1」が「枝葉がない棒」のように見え、これが転じて「妻子を持たない独身者」の意味となり、その「独身者」が暦の中で最も多く並ぶのが、11月11日だからだそうです。

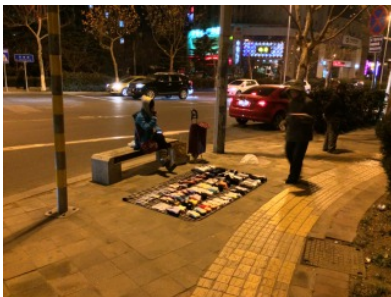
この「独身の日」には、いろいろな店でセールが行われます。特に、ネット上のショップでのセールは、大変な盛り上がりを見せます。そこで、私も「独身の日」セールの恩恵に預かろうとネットで買い物をしてみることにしました。日本と全く同じで、ネット上のショッピングモールで商品を検索し、適当なお店を見つけ、店の過去の取引の評価などを確認し購入したのですが、驚いたことに注文した商品が翌日届きました！

中国人の友人たちによると、「光棍節」のときはネット上での買い物が特に増えるため、商品の配送に平均10日はかかると言われているそうです。しかし、実際に店舗がある遼寧省瀋陽市から山東省青島市まで、なんと1日しかかかりませんでした！これには、中国人の友人たちも本当に驚いていました！中国のネット販売やそれを支える物流網が、自分の想像を超えてしっかり構築されていることに、大変驚きました。

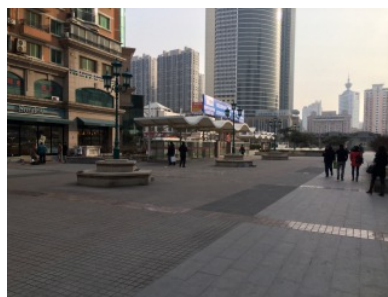
しかしその一方、首を傾げたくくなるような販売方法も同時に成立しているのが、今の中国の状況だと思います。普通の道端で、いきなり商品を広げ商売を始める人がいます。また、夜になるとどこからともなく広場に集まり、商売を始める人たちもいます。夜になると商品がハッキリ見えなくなるのに、なぜ夜に商売を始めるのかずっと不思議に思っていました。そこで、中国人の友人に尋ねてみると、意外な答えが返ってきました。友人曰く、「夜は警察が取り締まりに来ないから」というのです。路上や広場で無許可営業をしていると警察が取り締まりに来るらしいのですが、「暗くなると警察が来ない」というのです。このような理由から、夜に商売を始める。これには、ネットでの買い物とは違う意味で驚かされました。

ところで、私たちは、物を買うとき、どのように買う店を決めるでしょうか？意識的にせよ、無意識的にせよ、「店の外観・内装」や「店員の立ち居振る舞い」を見て、買う店を決めるのではないのでしょうか。その理由は、「商品」に対する情報の非対称性があるからだと思います。つまり、「商品」に対する情報は、私たち「買う側」より「売る側」の店の方が情報を多く持っています。なので、私たちは、「店の外観・内装」や「店員の立ち居振る舞い」を見て、その店が信頼できるかどうか判断しています。ネット販売も同じです。その店の過去の取引の評価などを見て、その店が信頼できるかどうか判断しています。しかし、このように路上や広場で商売をしている人たちは、経営に関する論理を超えて、「商売とは物を売ること。ただそれだけだ！」という、商売の本質を体現しているように感じます。

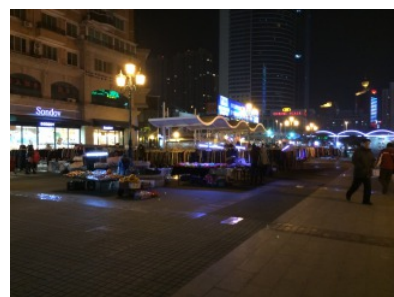
「しっかりした商売」と「怪しい商売」が同時に堂々と存在する国・中国。この多様性に富んでいる国・中国が、ますます面白く感じるようになってきました。



路上販売の様子



昼の広場の様子



夜の広場の様子